

おお み じょう し 大見城址に

戦国時代の山城

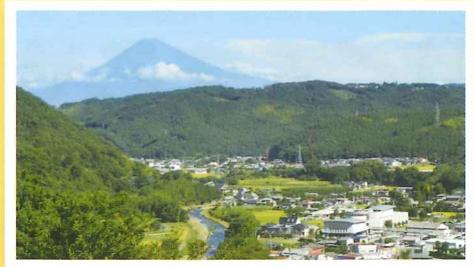
山頂まで15分

眼下には中伊豆の街なみ

遠くには富士山も

登ってみませんか

【山頂から見る富士山】



○ 大見城址公園

大見城址公園は戦国時代の山城「大見城」の跡地を整備した公園です。

大見城は平安時代末の豪族・大見平三家政または大見小藤太が構築したとされ、戦国時代に伊豆を支配した北条氏の下で更に整備されたと伝えられています。

公園内は「堀切」「堅堀」「曲輪」など当時の構造が分かるようになっており、山頂では攻め上がってくる敵兵がよく見えるようにと山肌には木を植えていなかった様子を再現するために「本曲輪」周辺の木を伐採し、旧中伊豆市街・冷川方面・天城方面の三方と遠くには富士山が見渡せるように整備されています。当時の様子を想像しながら公園内の散策を是非お楽しみください。

なお車は季多楽の駐車場をご利用ください。

季多楽から公園入口まで歩いて2分程、公園入口から山頂の四阿までは約15分程で行くことができます。



虎口 (こぐち)
城の出入り口。通常、敵が進入しにくいように鉤状に作られている。

切岸 (きりぎし)
人工的に出来るだけ急勾配になるよう削り込んだ斜面。急峻な為、敵が取りつきにくく敵の縦方向の移動を防ぐ。

堅堀 (たてぼり)
等高線に対して直交して掘られ敵の横方向の移動を防ぐ。

堀切 (ほりきり)
尾根を分断する堀。尾根伝いに攻めてくる敵を防ぐ。

本曲輪 (ほんぐるわ)
切岸を作った時に出来る平坦地。通常、柵を張り巡らせ、敵の侵入を防ぐ。防御拠点としたほか、味方の横方向の移動に使用した。また倉庫や物見櫓を設置した。



【公園入口の鳥居】



【途中にある諏訪神社】



【山頂にある四阿(あずまや)】